

# 第1学年 国語科学習指導案

場 所 1年2組教室

児 童 男17名 女16名 計33名

指導者 今 松 尚 志

## 1 単元名

くちばしクイズをしよう 「くちばし」

## 2 児童について

児童は、文字の読み書きに関心が高く、形を整えて書いたり、言葉集めをしたりしながら、ひらがなの学習をしてきた。初めての物語文「はなのみち」の学習では、絵と文章を照らし合わせたり、会話文を見付けて登場人物の気持ちを想像したりしながら内容を理解し、楽しみながら読むことができた。また、「えをみて はなそう」では、絵を見ながら質問したり答えたりする学習を通して、「問い」や「答え」の言い方を理解することができるようになってきている。しかし、文章の中から「問い」と「答え」を見付けたり、書かれていることの順序を考えながら読んだりすることについては初めての学習となる。

そこで、この単元では、同じ文型の文章を、同じ視点に沿って読み進める活動を行うことにより、「問い」と「答え」を見付けると同時に、「問い」、「答え」、「説明」の順序で文章が構成されていることを捉えることができるようにしていく必要がある。

## 3 単元の指導構想

### (1) 単元について

本単元は、新学習指導要領の「C 読むこと」第1学年及び第2学年の内容(1)ア「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」[知識及び技能]言葉の特徴や使い方に関する事項(1)ウ「長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。」に関わる単元である。

本教材は、児童にとって初めての説明的文章である。はじめに文と絵で「問い」があり、次に「答え」と「説明」がある構成が3回繰り返されるため、クイズに答えているように興味をもって読み進めることができると思われる。

本単元では、きつつき・おうむ・はちどりと、3回続く同じ文型から「問い」と「答え」の文を見付け、同じ視点に沿って読み進めていくことで「くちばしの形」、「問い」、「答え」、「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の順序で文章が構成されていることに気付くことができるようにしていく。また、絵や写真と言葉を対応させながら、重要な語や文を選び出し、3つのくちばしの働きや特徴の違いを比べて読むことができるようにしていく。

### (2) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

#### <育てたい資質・能力>

- ・ 事柄の順序を情報と情報との関係について理解することができる。【知・技】
- ・ 助詞の「は」の使い方を理解することができる。【知・技】
- ・ 「くちばしの形」、「問い」、「答え」、「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の順序で文章が構成されていることを読むことができる。【思・判・表】
- ・ くちばしの働きや特徴についての重要な言葉を選び出し、3つのくちばしを比べて読むことができる。【思・判・表】
- ・ 学習したことを生かして、主体的に「くちばしクイズ」をつくらうとしている。【学】



#### <深い学びの姿>

- ・ 「くちばしの形」、「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の視点によって読み取ったことをもとに、3つのくちばしを比べることで、それぞれのくちばしの働きや特徴を捉えて読む姿

### 視点1 深い学びを実現する単元構成

- 同じ視点で読みを重ねていくことにより、単元の学習が進むにつれ、児童が読み取り方を身に付けることができ、比べるという考え方を働かせることができるようにする。
- 第3次で「くちばしクイズ」をつくる単元を構成することにより、「問い」「答え」「説明」の順序で読むことや、くちばしの働きや特徴を表す重要な語や文を選び出すことなど、第2次での学習を生かすことができるようにする。

### 視点2 問題解決的な学習展開の充実

#### (1) 主体的な学びを促す手立て

- ・ 単元導入時に、単元の終末で行うくちばしクイズのモデルを提示したり、挿絵を生かした学習計画を掲示したりすることにより、どのような学習をしていくのか具体的な見通しをもつことができるようにしていく。(主①)
- ・ 思ったことや、次の学習でやりたいことを観点として振り返りを行うことにより、本時の学習における学びを実感したり、次時の学習に向けて意欲をもったりすることができるようにする。また、単元の終末に、単元を通して分かったことやできるようになったことの観点で振り返りを行うことにより、単元を通して学びと身に付けた力を実感することができるようにする。(主②)

#### (2) 対話的な学びを促す手立て

- ・ 事柄の順序を考えたり、3つのくちばしの違いについて考えたりする場面において、自分の考えをもつ時間を設定した上で対話活動を取り入れることにより、自分の考えとの共通点や相違点を自覚し、より考えを広めることができるようにする。(対①)
- ・ 児童の考えの根拠となる言葉や文を、絵と対応させながら板書に位置付けることにより、全体で思考を共有しながら学ぶことができるようにする。(対②)

## 4 単元の指導計画

### (1) 目標

- ・ 事柄の順序を情報と情報との関係について理解することができる。 【知・技】
- ・ 語と語の関係に注意して、助詞「は」を正しく使いながら、文を書くことができる。 【知・技】
- ・ 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【思・判・表】
- ・ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思・判・表】
- ・ 文章の内容や、「問い」と「答え」という形式に興味をもって読もうとしている。 【態】
- ・ 事柄の順序や「問い」と「答え」の形式をもとに「くちばしクイズ」をつくろうとしている。 【態】

### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「・・・は」の助詞「は」を正しく使いながら文を書いている。 ② 「くちばしの形」、「問い」、「答え」、「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」などの事柄の順序を情報と情報との関係について理解している。	① 「くちばしの形」、「問い」、「答え」「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の順序で文章が構成されていることを考えながら、内容の大体を捉えている。 ② 3つのくちばしの形や働きの違いについて、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	① 「くちばしの形」や「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」などに興味をもって読んでいる。 ② 「くちばしの形」、「問い」、「答え」「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の順序や「問い」「答え」の形式をもとに「くちばしクイズ」をつくっている。

### (3) 指導計画（8時間）

#### 【重点とする見方・考え方】

- ・ 文章の内容を理解するために、「くちばしの形」、「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」を表す語や文に着目し、説明の順序やくちばしの形が異なる理由について考えること。

段階	時間	主な学習活動	指導の手立て	評価規準（評価方法）
第一次	1	① 単元のゴールを知る。 ② 学習計画を確認する。	・ 単元のゴールを提示し、学習計画を確認することで、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。 (主①)	・ 「くちばしの形」や「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」などに興味をもって読んでいる。 【態①→発言、観察】

第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「きつつき」のくちばしについて読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くちばしの形」「くちばしの使い方」「えさの食べ方」の3つの視点を中心に読み進めていくことで、単元を通して見方を養うことができるようにする。</li> <li>「問い」の文には青色、「答え」の文には赤色でサイドラインを引く活動を取り入れることで、「問い」と「答え」の照応について視覚的に捉えることができるようにする。</li> <li>「くちばしの形」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「えさの食べ方」の5文のカードを並び替える活動を取り入れることで、文の構成を捉えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くちばしの形」や「くちばしの使い方」「食べ物」などに興味をもって読んでいく。</li> <li>【態①→発言・観察】</li> <li>「・・・は」の助詞「は」を正しく使いながら文を書いている。</li> <li>【知①→発言・ノート】</li> <li>「くちばしの形」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「食べ物」の順序で文章が構成されていることを考えながら、内容の大体を捉えている。</li> <li>【思①→発言・サイドライン】</li> <li>「くちばしの形」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「えさの食べ方」の事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</li> <li>【知②→発言・観察】</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おうむ」のくちばしについて読み取る。</li> </ul>				
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はちどり」のくちばしについて読み取る。</li> </ul>				
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つのくちばしの違いについて比較する。(本時)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や写真と言葉を対応させながら読むことで、くちばしの働きや特徴について具体的に捉えることができるようにする。</li> <li>既習である3つの視点をもとに3つのくちばしを比べることで、働きや特徴が違うことについて読むことができるようにする。</li> </ul> <p>(主②対①②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>くちばしの形が違う理由を「くちばしの使い方」や「えさの食べ方」を表す語や文に着目して考えている。</li> <li>【思②→発言・観察】</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズづくりをする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>くちばしの説明文の構成について、掲示物などを活用して想起することで、「くちばしの形」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「えさの食べ方」の順序でクイズづくりができるようにする。</li> <li>(主②対①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くちばしの形」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「食べ物」の順序や「問い」「答え」の形式をもとに「くちばしクイズ」をつくっている。</li> <li>【態②→クイズカード】</li> <li>「・・・は」の助詞「は」を正しく使いながら文を書いている。</li> <li>【知①→発言・ノート】</li> </ul>
7						
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「くちばしクイズ大会」をする。</li> <li>② 単元の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して学びを振り返ることで、単元を通じた学びと身に付けた力を実感できるようにする。</li> <li>(主②対①)</li> </ul>				

## 5 本時の指導計画

### (1) 目標

- 3つのくちばしを比べて読み、重要な語や文を選び出すことを通して、同じくちばしでも働きや特徴が違うことについて読むことができる。【思・判・表】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
3つのくちばしを比べて読み、くちばしの形が違う理由を、とがったくちばしで木に穴を開けるなど「くちばしの使い方」や、木の中にいる虫を食べるなどの「えさの食べ方」を表す語や文に着目して読んでいる。	「くちばしの使い方」、「えさの食べ方」の視点を想起させることで、3つのくちばしについて、どの語や文に着目すればよいのかに気付くことができるようにする。

(3) 展開

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (5分)	1 本時の学習課題を確認する。  くちばしのかたちがちがうわけをかんがえよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を指し示しながら本時の学習課題を確認する。(主)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画</li> </ul>
展開 (30分)	2 学習課題を解決する (1) 音読をする <ul style="list-style-type: none"> <li>役割読み</li> </ul> (2) 3つのくちばしの違いを比べる。 <きつつき> <ul style="list-style-type: none"> <li>さきがすどくとがっている。</li> <li>きにあなをあける。</li> </ul> <おうむ> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふとくてさきがまがっている。</li> <li>かたいたねのからをわる。</li> </ul> <はちどり> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほそくてさきがのびている。</li> <li>はなのなかにいれる。</li> </ul> (3) 3つのくちばしの形が違う理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>食べるえさが違うから。</li> <li>えさを食べるためには、そのくちばしじゃないといけないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次の学習を通して行ってきた役割音読を全文通して行うことで、構成の順序についての理解を深めるとともに、3つのくちばしを比較していくという意識をもつことができるようにしていく。</li> <li>絵や写真と言葉を対応させながら説明する場を設定することで、くちばしの働きや特徴について具体的に捉えることができるようにする。(対)</li> <li>児童が選び出した語や言葉を可視化することで、3つのくちばしの違いを全体で共有しながら捉えることができるようにする。</li> <li>自分の考えをペアで交流することで、自分の考えと友達の考えを比べながら考えを広めることができるようにしていく。</li> <li>発言に対する問い返しを行うことで、3つのくちばしの形が違う理由を「くちばしの使い方」や「えさの食べ方」を表す語や文に着目して考えることができるようにする。</li> </ul> ◇ くちばしの形が違う理由を「くちばしの使い方」や「えさの食べ方」を表す語や文に着目して考えている。【思・判・表→発言・観察】	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つのくちばしの絵と写真</li> </ul>
まとめ (10分)	3 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>食べるえさが違うから、くちばしの形は違うということが分かりました。</li> <li>クイズにしたい鳥を決めて、クイズづくりをしたい。</li> </ul> 4 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「3つのくちばしを比べて読んで分かったこと」や「次時でやりたいこと」という振り返りの観点を具体的に示すことで、本時における自分の成長や次時への意欲をもつことができるようにする。(主)</li> <li>次時では、くちばしクイズをつくることを予告し、次時への意欲をもつことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画</li> </ul>